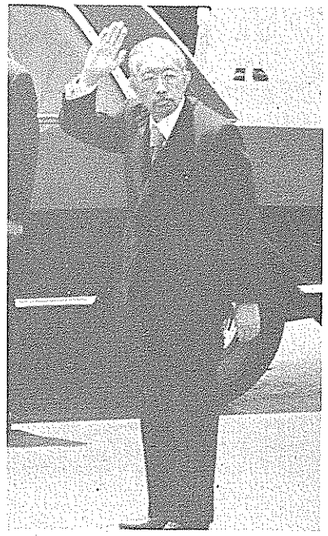


★第29回全国植樹祭★
天皇陛下がご来高

第二十九回全国植樹祭（土佐山田町市喜ケ峰森林公園）のご出席と地方事情ご視察のため、五月二十日、天皇陛下は高知空港にお着きになりました。

天皇陛下のご来高は、二十五年ぶりのことで、昭和二十五年の戦後状況のご視察、同二十八年の四国国体ご臨席に続き三度目。

空港では、この日小笠原市長、橋本(一)市議会議長、中内知事らの出迎えを受け、人々の歓迎にこたえておられました。

この後陛下は、二十一日に全国植樹祭にご臨席のあと、高知市内、足摺地方を視察され、二十四日全日程をつつがなく終えられ、無事ご離高されました。

高知―名古屋便が就航
わずか一時間二十分で

高知と名古屋をわずか一時間二十分で結ぶ、東亜国内航空の高知―名古屋線が六月一日運航を開始しました。

同線は一日一往復、YS11型機で就航するもので、高知発11時40分…名古屋着13時、名古屋発13時25分…高知着14時55分が運航ダイヤ。旅客運賃は、大人一万七百円、小児五千三百五十円となっています。

この日は、高知空港で式典が行われ、一番機乗務員らに花束贈呈があった後、町田副知事、小笠原市長らがテープカットし、出発式を終りました。また、県庁ブラスバンドや高知市観光協会のよさこい踊り子隊が式典に花をそえ、乗客には尾長鶏の民芸品のプレゼントがあり、航路開設を祝いました。

野菜ハウス団地差工
三島農業構造改善事業

農地の区画整理や農業の近代化を進めていこうと、昨年度からはじめられた三島地区の第二次農業構造改善事業。

昨年のほ場整備に続いて、六月一日、農業近代化事業として野菜ハウス団地の起工式が現地で行われました。

このハウス団地は、地元の農事組合法人、三島園芸団地＝池知五男代表理事が国の補助を得て取り組むもの。大型ハウス二十三棟を建設、事業費は約一億四千五百万円、八月末に完成する予定。

当日は、池知代表理事をはじめ地元関係農家の人たち、関係者ら約五十人が出席して工事の無事を祈りました。

この農業構造改善事業は、ほ場整備、水稲育苗施設やライスセンターの設置、農機具の整備などが計画されており、全体計画は五十五年完成予定。

給与所得者の……
災害時の税の減免

これから梅雨期に入りますが、この時期には大雨による被害が発生することがあります。風水害や火災などで、住宅や家財などに損害を受けたときには、税金の面でも救済措置が設けられています。

サラリーマンが災害によって被害を受けたときには、災害減免法の規定により次の二つの救済方法があり、どちらか有利な方を選ぶことができます。

(1)住宅や家財について、その価額の二分の一以上の損害を受け、しかも、その年の合計所得金額の見積額が四百万円以下の場合は源泉所得税の徴収猶予や還付が受けられます。

(2)災害などによる損害額が、その年の合計所得金額の見積額の一〇％を超えるため、所得税法による雑損控除が受けられると見込まれるときは、災害を受けた後支払いを受ける給与の所得税について、その雑損控除の見込額に対応する税額の徴収猶予が受けられます。

どちらの方法を選ぶときでも、徴収猶予の申請などの手続きが必要ですから、これらの救済措置を受けようと思われる人は早めに税務所または、税務相談室にご相談ください。

また、徴収猶予や還付を受けた人は翌年の三月十五日までに税務署に確定申告をしてその年の所得税の精算をしなければなりません。

なお、以上のような手続きを取ってないときでも、確定申告で雑損控除の適用を受ける救済方法もあります。

【南国税務署】

"歩み始めた二年目展"
市展（市職員）作家集団

地域文化の発展は市職員から……を合言葉に結成した市展（市職員）作家集団（沢本英世座長）の第二回グループ展が、今年も六月二十六日から七月一日まで、市役所市民ホールで開かれます。

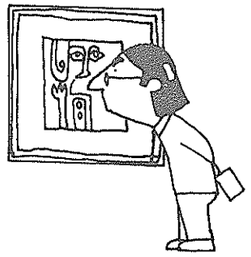
今年のテーマは、"歩み始めた二年目展"で、洋画、写真、漫画、書道、工芸の部門で約三十点が出品されます。

作家集団も今年で二年目をむかえ、第二回展は地域文化にかかわりのある作品を準備するなどの試みをして、目ごろの成果を発表するもの。お堅いイメージの市役所を訪ずれる市民の心をなごませれば幸いです。

みなさんのおいでをお待ちしています。

市役所内☎内線407

【市展（市職員）作家集団】



欧州行政視察を終えて⑪

市長　小笠原　喜郎

ベルリン聞き書き

誇り高いブランデンブルグ門は廃虚の中に巨大な墓標のように立っている。若者たちはしずかに、夜の更けるまで、その姿を眺めつづけている。

東ベルリンの人々でも、女子六十歳、男子六十五歳になると、希望すれば西ベルリンへ転住することが許されるそうである。つまり、もはや労働力でなくなり、そろそろ国のお荷物になりかけて来た年齢の人たちである。

文字どおり命懸けで壁を乗り越えようとしたり、シュプレー川に潜ってまで、西ベルリンに脱出しようとする若い人たちが多いのには、いろいろの理由があろう。一方的かも知れないが、現地のある人はこういう見方をしている。「同じマルクでも東が安い。復興も遅れている。いくら努力しても、才能があっても、特定の党員でなければ、所詮指導者にはなれないだろう。指導者になってもソ連には頭が上らないだろう。自由な活躍が出来る西ベルリンへ出たい。さらに、西ベルリンという島から西ドイツへ出て、天井の高い天地で思いきり自分の才能を伸してみたい。このような単純な理想と、あこがれが彼らを駆り立てているであろうと。」日本の若者たちも真面目に思索もするし、随分乱暴なことも平気でやってのける勇気ももっている。しかし、私が今見ているこの東ベルリンの若者たちはかつて一九一四年（大正三年）から五年間にわたり、一九三九年（昭和十四年）から六年間にわたって、二十世紀前半に二回も世界の列強を一手に引きうけて戦争した国民の後裔であり子孫である。そして、それは世界中の国々、特に接壌国の欧州各国の人々は知りすぎるほどよく知っている。これに関連して二つほど印象深い話をしるしておきたい。

日本人の中には遠くからドイツを見て、東西二つに引き裂かれたままで、各々政治体制の異なった独立国になっているのは、いまわしい戦争の残した悲劇であると同情している人が多い。ごく自然な考えである。第二次大戦がおさまった後に戦禍をうけた朝鮮や、ベトナムを見てきているせいもあろう。実際に東西両陣営とも、各々自国と同じ体制の一つの国にしようと望み、努力した時代があったことも事実である。今はどうであろうか。西ドイツのすばらしい発展は、フランスの脅威になりつつあるといわれている。英国も強大化して来たドイツの動向には警戒せざるを得ない。ソ連にとっては今でさえ手ごわい相手である。過去においては幾度か苦い経験をさせられている。東西両ドイツが合邦して大勢力となることは、政治体制からも、軍事面からも望むはずがない。遠くから見ている人と、血みどろの抗争をくり返した歴史を持っている人々との感覚の相違である。

今一つは、ハイジャックについてである。我々は日航機ハイジャック事件の直後に東京を出発したが、ソ連、フィンランド、スェーデンと旅行中報道機関からも遠ざかっているので、自分たちが利用しているルフトハンザの同型機が、ハイジャックされたことは知らなかった。ベルリンのある席で国の出先機関から聞いた話によると、西独政府は、当時日航機救出について十六億円というけたはずれの大金と、要求された犯人を、いうがままに提供したことは国際的にも好ましからぬ影響があって、今後のこの種の事件を誘発する危険さえ予想されると不満の意思をこめた申し入れがあったそうである。

その直後、まるで予言したかのように、ルフトハンザがハイジャックされた。そしてあのような日本とは全くちがった強硬手段で救出してしまった。まことに鮮かなお手並であった。

二つの話は、ドイツ人気質を物語るものとして私の記憶から去ることはないであろう。